

第1学年 国語科学習指導案

- 1 **単元名** 「どうぶつひみつくいず」をつくって紹介しよう
教材名 「どうやってみをまもるのかな」(東京書籍1年上)

2 単元の目標

- 動物の身の守り方に興味を持って、説明文や本に書かれていることを楽しみながら読むことができる。 【関心・意欲・態度】
- 事柄の順序に気をつけながら、内容を正しく読み取ることができる。 【C 読むこと イ】
- 体の特徴や身の守り方を表す大事な言葉や文を見つけながら読むことができる。 【C 読むこと エ】
- 主語や述語の関係に気を付けて読むことができる。 【言 イ(カ)】

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「C 読むこと」の指導事項「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」と「エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」を取り上げて指導する。

②付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

本単元では、「C 読むこと」の言語活動例「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。」を具体化した「お気に入りの動物を見つけて、『どうぶつひみつくいず』を作り、紹介する。」という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる「お気に入りのどうぶつをみつけて、『どうぶつひみつくいず』を作り、紹介する。」は、読み広げた本の中から自分のお気に入りの動物を選び、その動物の身の守り方についてクイズ形式にまとめて、友だちに紹介するというものである。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、『どうぶつひみつくいず』を作って友だちに紹介する」という目的意識を持たせ、学習を進めていく。ゴールイメージを持つことで、児童は興味を持って説明文や本を読み広げていこう。児童にとっては初めての並行読書となるため、並行読書を行う際には、「身の守り方」という視点に絞って、文章の中から体の特徴や身の守り方を表す大事な言葉や文を見つけながら読めるように意識させたい。本の中から大事な言葉や文を見つけることは、語彙や生活経験の少ない一年生には難しいと考えられるので、写真や絵を手掛かりにしたり、読み聞かせをしたりして、読み取らせるための支援をしていく。

「どうぶつひみつくいず」を作る際には、教材文と同じ文章構成でクイズを作るようにさせる。読み取った内容を順序に気を付けてまとめていくことで、内容をきちんと認識し、正しく理解することができる。と考える。「どうぶつひみつくいず」は1枚目に問いの文と絵、2枚目に答えの文と絵を書き、問いと答えを意識してまとめるようにし、説明文の基本的な形を学ぶことをねらいとしている。「どうぶつひみつくいず」を紹介し合うことで、児童は様々な動物について興味がわき、

さらに自ら調べようと意欲を高めるだろう。

(2) 児童観

児童は、文字を50音すべて学習し、少しずつ読める字や書ける字が増えてきた。これまでに音読をしたり、想像したことを話したりしながら、ある程度のまとまった文章がよめるようになってきている。5月の教材「とんこととん」では、登場人物のしたことを中心に想像を広げながら読み、登場人物になりきって音読をするという学習を行った。学習する際には、絵と文をつなげながら、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取っていった。「とんこととん」の物語は一文が短く、簡潔な文章であること、ねずみの家の下にもぐらが引っ越してくるという楽しい展開であることなどから、児童は抵抗なく楽しんで学習することができた。しかし、場面の様子を読み取る際、前後の出来事とつなげて考えることは難しい児童が多かった。物語の順序を正確に読み取り、書かれている内容を正しく理解するのに支援の必要な児童もいた。言葉の意味を理解させることや動作化させること、読み方を工夫することで書かれていることを正しく理解させるようにしてきた。

(3) 指導観

第一次では、動物の写真を見たり、動物に関する経験を出し合ったりして、動物に興味を持たせる。その後、学習の流れや言語活動について知らせ、並行読書の紹介をする。「どうぶつひみつくいず」の教師モデルを紹介することで、自ら調べたいという意欲を高める。「お気に入りの動物を見つけて、『どうぶつひみつくいず』を作り、紹介する。」というゴールイメージを持たせ、目的意識を持って学習へと入らせたい。

第二次では、文章を4つのまとまりに分け、挿絵をもとに、3種類の動物を確認し、内容の大体をおさえる。本教材は、どの動物も体の特徴・問いの文・答え（身の守り方）という順序で説明されており、繰り返しの文章構成になっているため、内容が正確にとらえやすい。教材文を読む際には、4種類のシールを使って書かれている事柄を色分けし、繰り返しの文章構成に気づかせるようにしていく。1つ1つの動物を取り上げ、文章の中から体の特徴・問いの文・答え（身の守り方）について手がかりとなる大事なことばや文を見つけ、挿絵とつなげて読む活動を通して、内容を正確に読み取らせていく。また、主語、述語の関係に気を付けて動物の体の特徴や身の守り方を読み取ることや、説明文の基本的な形（問い・答え）を意識して読むことで内容を正しく読み取り、理解する力をつけていきたい。さらに、読み取った事柄は自分の言葉で説明し、動作化させ、内容を正確に理解できるようにしていく。書き抜く活動は児童にとって難しいと考えられるので、ワークシートも教科書と同じように色分けをし、大事な言葉を囲むなど支援しながら行っていく。

また、並行読書の中から自分のお気に入りの動物を決めさせておき、その動物のページを印刷配布して家庭学習でも利用できるようにする。家庭学習では、学習したことを活かして、自分のお気に入りの動物の名前・体の特徴・身の守り方の書かれている言葉や文を見つけ、印をつけるようにさせ、翌日の授業と家庭学習とのサイクル化を図る。

第三次では、並行読書の中から自分のお気に入りの動物について、読み取った内容を動作化したり、絵を書いたりしたあとに「どうぶつひみつくいず」にまとめることで内容をきちんと認識し、正しい理解へとつなげていく。クイズにまとめるときには、問いと答えという説明文の基本的な形を意識させるようにする。クイズ大会では、作ったクイズを紹介し合うことで、問いと答えという説明文の仕組みがわかり、友だちの気に入った動物にも興味を持って、もっと調べたい、本を読みたいと感じさせ、次への意欲につながる活動や交流になるようにしたい。

4. 単元構想図

つきたい力に向けた言語活動

自分のお気に入りの動物について、身の守り方を読み取り、「どうぶつひみつくいず」を作って紹介する。

児童の実態

- 文章の前後の関係を考えながら読むことは難しい。
- 書かれている文から内容を正しく読み取り、理解することが難しい。
- 絵から読み取ることは得意だが、文と絵をつなげながら読むことが弱い児童もいる。

単元の評価規準

- 《国語への関心・意欲・態度》
- ①動物の身の守り方に興味を持って、説明文や本に書かれていることを楽しみながら読んでいる。
【関心・意欲・態度】
- 《読む能力》
- ①お気に入りの動物の身の守り方を「どうぶつひみつくいず」で紹介するために、事柄の順序に気をつけながら、内容を正しく読み取っている。
【C(1)イ】
- ②動物の体の特徴や身の守り方を表す大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。
【C(1)エ】
- 《言語についての知識・理解・技能》
- ①主語や述語の関係に気を付けて読んでいる。
【言イ(カ)】

本単元で児童につきたい力

- ◎事柄の順序に気をつけ、内容を正しく読み取る力
【C(1)イ】
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜く力
【C(1)エ】

学習の流れと評価計画(全9時間)

主体的な学び

- 学習のねらいをつかみ、見通しを持つ。①【関①】
- ・動物の写真を見て、動物について知っていることや経験について話し合う。
 - ・学習のゴールと流れを確認し、意欲を持つ。

対話的な学び

深い学び

- 文章を4つのまとまりに分けてとらえ、それぞれの動物の身の守り方を正しく読み取る。⑤
【読①②】【言①】

- ・挿絵をもとに内容の大体をつかむ。【読①】
- ・やまあらしの体の特徴・問いかけ・身の守り方を見つけながら読む。【読②】【言①】
- ・あるまじろの体の特徴・問いかけ・身の守り方を見つけながら読む。【読①】【言①】

本時

- ・すかんくの体の特徴・問いかけ・身の守り方を見つけながら読む。【読①②】

対話的な学び

深い学び

- お気に入りの動物の体の特徴と身の守り方を読み取り、「どうぶつひみつくいず」を作って、紹介する。
【関①】【読①②】【言①】

- ・お気に入りの動物の体の特徴・身の守り方を読み取る。
【読②】
- ・「どうぶつひみつくいず」を作る。【読①】【言①】
- ・クイズ大会で紹介し、振り返る。【関①】

第一次
①
(導入)

第二次
④
(展開)

第三次
④
(発展)

並行読書

5. 評価規準

B 概ね満足できる状況

- ◆すかんくの体の特徴や身の守り方のわかる大事な言葉を見つけながら読み、すかんくの身の守り方とそのための特徴について読み取っている。

すかんくは、しるをとばしてみをまもります。
てきがきたら、さかだちをして、おどかします。
てきがにげないとくさいしるをとばします。

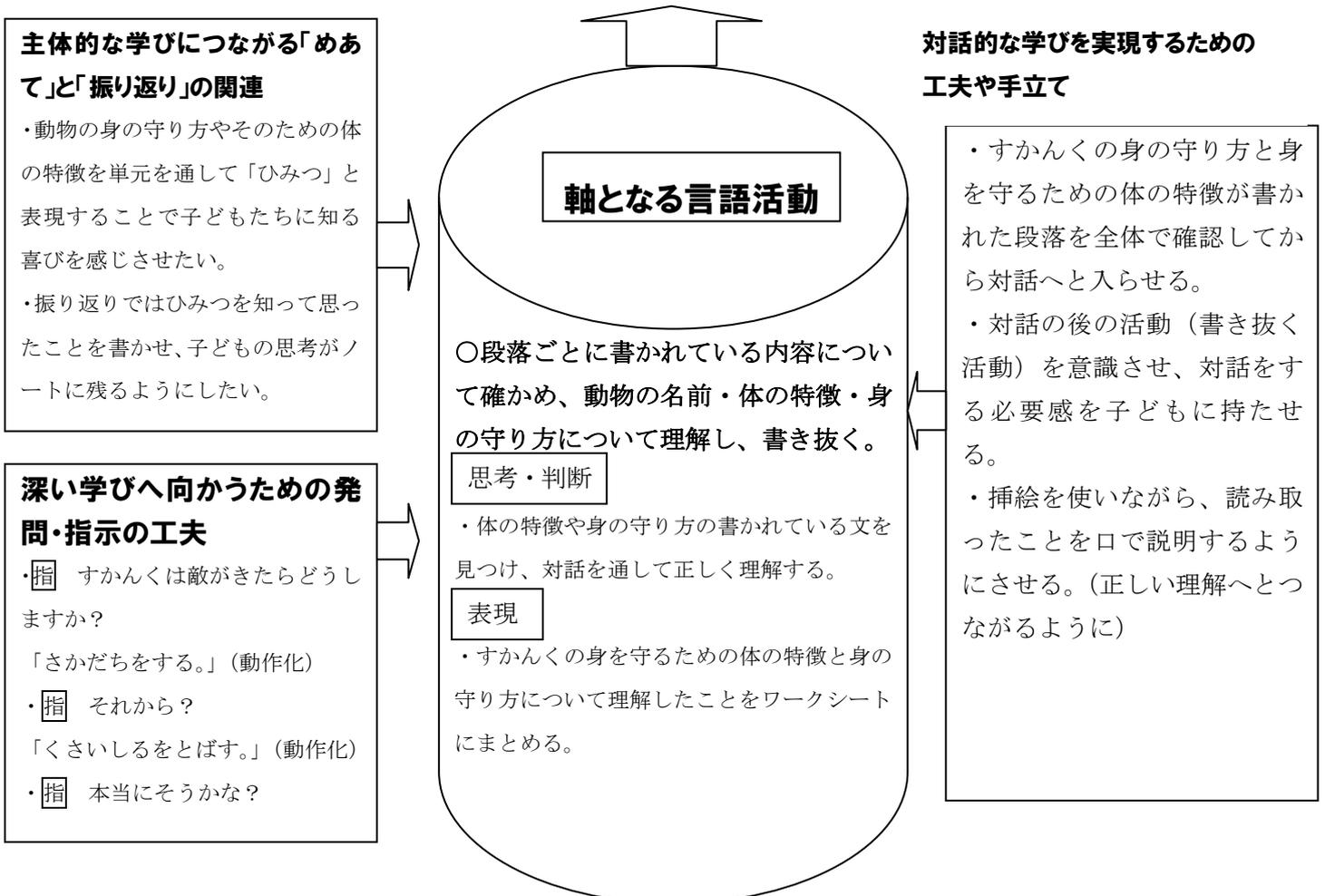
A 十分満足できる状況

- ◆すかんくの体の特徴や身の守り方のわかる大事な言葉を見つけながら読み、すかんくの身の守り方とそのための特徴について正しく読み取っている。

すかんくは、しるをとばしてみをまもります。
てきがきたら、さかだちをして、おどかします。
てきがにげないと、さかだちをやめて、くさいしるをとばします。

6. 本時における研究テーマとのかかわり（身につけさせたい資質・能力）

すかんくの体の特徴と身の守り方について大事な言葉や事柄の順序に気をつけながら読み、内容を正しく読み取る力。



7. 本時の学習（5／9）

第二次 4時間目

(1) 身につけさせたい資質・能力 すかんくの体の特徴と身の守り方について大事な言葉や事柄の順序に気をつけながら読み、内容を正しく読み取る力。

(2) 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 支援 (※) 評価 (☆)、主な指示 ^指 、主な発問 ^発
見 通 す	<p>1. 単元のゴールを確認し、前時までの学習を振り返る。</p> <p>2. 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうやってみをまもるのかな。すかんくへん</p> </div>	<p>○学習の流れを見て、ゴールを確認する。</p>
思 考 し 表 現 す る	<p>3. すかんくのこと書かれている段落を読み、段落ごとの内容について確認する。</p> <p>(1) 段落ごとに書かれている内容を確認し、やまあらしやあるまじろとの違いを確認する。</p> <p>(2) 17段落について考える。</p> <p>(3) ワークシートにシールを貼る。</p> <p>4. すかんくの体の特徴について読み取る。</p> <p>(1) 全体で確認する。</p> <p>(2) ワークシートに書く。【全体】</p> <p>5. 身の守り方について読み取り、理解する。</p> <p>(1) ペアですかんくの身の守り方について説明し合う。</p> <p>【全体】→【個人】→【ペア】→【全体】</p> <p>(2) ワークシートに書き抜く。【個人】</p>	<p>○やまあらしやあるまじろの学習を振り返り、名前・体の特徴・問いの文・身の守り方の繰り返して文章が構成されていることを確認する。</p> <p>○17段落の「てきがにげないと」に注目させ、書かれている内容が身の守り方であることを押さえる。</p> <p>○すかんくの体の特徴の書かれた段落を読み、挿絵とつなげながら読み取り、一緒に書く。</p> <p>^発「すかんくは敵が来たらどうしますか。」「それから?」「本当にそうかな?」</p> <p>※その場面を想像させ、動作化しながら説明するように声をかける。</p> <p>☆すかんくの体の特徴や身の守り方について大事な言葉を見つけながら読み、正しく読み取っている。</p> <p>【読①】【読②】(ワークシート、発言)</p>
振 り 返 る	<p>6. 今日の振り返りを書く。</p> <p>・代表で発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>家庭学習</p> <p>お気に入りの動物の身の守り方とそのための体の特徴を見つけ、線を引いてくる。(並行読書のコピーを配布)</p> </div>	<p>^指すかんくのひみつを見つけて、わかったことや思ったことをすかんくの敵に教えてあげるつもりで、書きましょう。</p> <p>○次時の予告をし、予習について伝える。</p>